

	提 案 名	提 案 団 体 名	
		代表者氏名	所 属
1	宇都宮市におけるサステナブル・コミュニティの創造へ向けて - JR宇都宮駅東口地区を事例として -	宇都宮大学サステナブル・コミュニティ研究会	
		田崎 真弓	宇都宮大学 教育学部
		指導教員氏名	陣内 雄次

## 1. 提案の要旨

近年、急激にコミュニティが変容し地域のつながりが弱まっている JR 宇都宮駅東口周辺地区（以下、駅東地区）を事例として、自治会の活性化策や新たな方向性を検討し、サステナブル・コミュニティ創造への道筋を提案する。（駅東地区の実態は後述）

### 【現状分析】

駅東地区は、日常生活に必要な商品やサービスが受けられる地域であり、生活する上で利便性が高い。その一方、治安や街並みへの満足度は低く、暮らしやすい地域にする為には、これらの項目を改善が求められる。

宇都宮市全体の自治会加入率は低下傾向にある。しかし、アンケート結果によれば、加入しなかったのは、「勧誘がなかったから」という回答が最も多かった。つまり、加入率の低下を嘆く前に、勧誘を積極的に行うなどの工夫が必要。そして、自治会そのものの魅力を高め、情報発信し、自治会への理解を深めてもらうことが重要である。

ちなみに、自治会に加入していない人は、賃貸の集合住宅に居住する若い世代が多い。彼らは、自治会や地域のつながりの必要性を否定しているのではない。その根拠としては、緊急時や災害時において、不安を抱えている住民が多いことが挙げられる。一戸建てに居住する住民と比較すると、その違いがよく分かる。つまり、賃貸の集合住宅に居住する若い世代にもっと自治会のことを理解してもらえれば、地域のつながりを強くすることができる。

### 【提案内容】

#### その1. 自治会マーケティングプロジェクト

自治会のことを、より多くの人に理解してもらう。そのために、チラシ、インターネット、新聞などの手段を使って、情報を得やすい環境を整えておく。また、魅力的な情報を発信できるように幅広い年代が参加して情報提供を行う。

#### その2. マンション・アパートに住む人ともっと仲良くなるうプロジェクト

現状分析から、集合住宅の住民が地域に関わりやすいようにする必要がある。

#### その3. 何でも連携プロジェクト

学校やNPOなどと連携して、お互いに不足している部分を補い合う。それにより、地域全体の交流を促す。

#### その4. みんな自治会役員になるうプロジェクト

現在の自治会では役員が固定化してしまい、住民のニーズに合わせた活動を行いにくくなる傾向にある。そのため、自治会内外の様々な人材を役員に起用し、風通りのよい自治会運営になるような仕組みを作る。

## 2 . 提案の目標

- ・ 快適で居心地のいい街の実現
- ・ 住みたい・住み続けられる地域の創造
- ・ 自治会活動の改善による元気な地域づくり
- ・ 新規住民と従来から住んでいる住民が交流しやすい仕組み作りの実現